

【参考資料①】

第1回 尾花沢市保育施設未来予想図検討委員会 会議録

日 時：令和2年2月25日（火） 午後7時00分～8時45分

場 所：尾花沢市役所3階防災研修室1

出 席：21名

○協議内容

1. 尾花沢市の保育施設の状況について

事務局より説明；資料説明

(1) 尾花沢市の保育所をとりまく環境

保育所の入所児童が年々減少し、施設老朽化の方も進んでいる。

また、入所希望児童の低年齢化が進んでおり、保育士の不足といった問題がでてきている。

(2) 尾花沢市の子育て支援の状況

平成27年3月に策定した「尾花沢市子ども・子育て支援事業計画」に基づきまして地域全体社会全体で支えあうあたたかい子育てのまちづくりに取り組んでいる。

今現在第2期の計画の策定中であり、引き続き充実した子育て支援策が行えるよう子ども子育て会議といった委員の皆様からご審議頂いている状況である。

(主な施策の内容)

①保育料の軽減事業の拡大

②保育園副食費の完全無償化

(3) 尾花沢市の保育の現状

I. 就学前児童の推計

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
児童数	0歳	73	68	64	60	55
	1・2歳	164	159	148	139	131
	3～5歳	295	286	268	239	229

子ども・子育て支援事業計画策定に係る就学前児童推計によると、就学前児童数は減少傾向で推移し、令和6年度には415人となる見込みである。

II. 統廃合の状況

宮沢地区、常盤地区、福原地区の保育施設の統合を進め、現在尾花沢市では、公立保育所4園と私立保育所3園、私立幼稚園が1園の計8施設により幼児教育・保育を行っている。

(平成26年度よりよつば保育園民営化、令和2年度より認定こども園尾花沢幼稚園開園)

III. 入所児童の状況

各保育所の定員に対する入所率については、平成31年4月1日現在公立保育所の定員

が390人に対し入所率は55.1%、私立の定員が220人に対し入所率は81.3%（広域に委託している児童除く）、幼稚園の定員120名に対し入所率は58.3%となっており、全保育園、幼稚園において定員を割っている現状である。

IV. 施設の状況

■ 公立・私立保育所等の入所定員と建築経過年数（R2.2月現在）

（公立）	おもだか保育園	さくら保育園	ときわ保育園	玉野保育園
入所定員	140名	80名	50名	120名
建築年	昭和50年7月	昭和61年7月	昭和63年11月	昭和57年11月
経過年数	44年	33年	31年	37年
（私立）	ひまわり保育園	よつば保育園	尾花沢幼稚園	
入所定員	90名	100名	150名	
建築年	昭和56年3月	平成21年10月	令和2年3月	
経過年数	39年	10年	0年	

公立保育園については、全て築30年以上、私立保育園のひまわり保育園においても築40年目を迎えており、施設の老朽化が顕著である。

V. 特別保育等の状況

延長保育は全保育施設で実施。保育所利用者の約7割が利用している状況。その他、一時預かり保育、土曜保育、障害児保育についても利用者のニーズに応じて実施している。

（4）これまでの検討経過

本市の保育施設のあり方については、公立保育所のあり方検討委員会、子ども・子育て会議内で検討部会を立ち上げ検討してきた。

検討部会においては、出生数の急激な減少及び施設老朽化による統合再編の必要性、公立・私立の役割の明確化、多様化する保育ニーズへの対応をポイントとして議論を深めていく必要があるとの意見が出されている。

<説明後：質疑応答> 質問なし

2. 尾花沢市保育施設未来予想図検討委員会 開催予定（案）

第2回・第3回はワークショップで意見を出していただく。第4回を目途に方向性を出していきたい。

<説明後：質疑応答> 質問なし

3. 保護者アンケート（案）

アンケートについての説明

【質疑】

委員（質問）

アンケートについては、現在保育園幼稚園の保護者対象で限定されているが、高齢の方や地域の方などいろいろな方から意見を頂戴する方法も検討してはどうか。

事務局（回答）

質問の内容もかなり具体的にということで質問を考えた。もっと幅広く皆さんからお聞きした方がいいとは思いますが、現在の状況を自分のこととして考えていただける保護者に限定しアンケート調査を実施したい。地区の方には、座談会などの形で意見を集約したいと考えている。もっと様々な世代から意見を聴取すべきだということであれば、今後検討して対応したい。

委員（質問）

小学校、中学校統合して意向なることが決まったと話がでている。尾花沢市本町の人はいいとして、遠くにいる人は距離的に通学が大変。今より不便になると、尾花沢市にいるより他のところに行った方が安心と思うことが事実としてある。

市として統合する8年後にこのような対応をするといった住民を安心させる改善・代替案を出してもらわないと更に不安をかきたてる。隣の家の子は、中学校に就学する時期を狙って東根に引っ越した。そういう人も出てきている。安心して住み続けるためにどうしたらいいかアンケートをとったほうがいい。

事務局（回答）

各地域の保育園は貴重です。統合がありきではないので、座談会などで幅広く意見を聞いた上で方向性を検討していきたい。

委員（質問）

あり方検討部会の部会とはなにか。

事務局（回答）

子ども・子育て会議委員の方から5名選出し、計画に盛り込む「市内の保育所のあり方」についての課題を整理することを目的として議論していただいた。

委員（質問）

アンケートや委員会など、最初から保育園を本町地区に集める方向性が出来ているのではないか。

事務局（回答）

統合は、決定ではない。これから保護者の代表、区長、保育行政関係者のメンバーで構成される当委員会において、方向性を示していきたい。

■保育所のあり方アンケートまとめ（実施期間：令和2年3月18日～27日）

●実施対象：市内保育施設利用者 487名

●回収率：75.3%（有効回答367件）

問1 お住いの地区について

問2 統合の賛否について

問1・2 地区別の維持、統合

	現状維持	統合	計	統合
本町地区	68	119	187	63.6%
福原地区	15	35	50	70.0%
宮沢地区	8	10	18	55.6%
玉野地区	30	20	50	40.0%
常盤地区	11	17	28	60.7%
標記なし		2	2	100.0%
計	132	203	335	60.6%

全体的には6割が統合すべきとの回答となったが、玉野地区は4割に留まり、福原地区は7割と地域間で大きな差異となっている。

《自由記述》

- ・それぞれの家庭の事情を勘案して欲しい。
- ・各地区に預けて、その後バスで中央へ移動できないか。
- ・出来る限り地域の保育園を存続させ、著しく子どもが減少すれば統合せざる得ない。

問2-1 現状維持すべき理由 132名

	利便性	地域活性化	避難所	その他	計
本町地区	52	12	3	1	68
福原地区	11	3	1	0	15
宮沢地区	4	3	0	1	8
玉野地区	23	3	2	2	30
常盤地区	8	2	0	1	11
標記なし	0	0			
計	98	23	6	5	132

維持すべき理由の74%が「利便性」を挙げており、通園距離が遠くなることに不安を感じていると思われる。また、17%が保育施設がなくなることで地域活動の衰退に影響すると危惧している。

《自由記述》

- ・それぞれの家庭の事情を勘案して欲しい。

- ・各地区に預けて、その後バスで中央へ移動できないか。
- ・出来る限り地域の保育園を存続させ、著しく子どもが減少すれば統合せざるを得ない。

問 2-2 統合すべき理由 203 名

	子どものため	職員配置からの安心	サービス充実	その他	計
本町地区	39	39	39	2	119
福原地区	15	8	12	0	35
宮沢地区	4	3	2	1	10
玉野地区	12	4	4	0	20
常盤地区	9	4	3	1	17
標記なし		2			2
計	79	60	60	4	203

統合すべきとした理由の約4割が保育行事や集団生活の学習など「子どものため」としており、小・中学校が統合するとした学園構想案も踏まえて保育園から一緒とする意見が多い。また、3割が「職員配置に余裕ができ安心して預けられる」とし、同じく3割が「少子化に伴う効率化は仕方なく、むしろ新たなサービスを開始すべき」と期待している。

問 2-3 統合のめやす

	老朽度	保育園行事に支障	その他	無回答	計	老朽度	保育園行事に支障
本町地区	95	16	1	7	119	80%	13%
福原地区	23	10	0	2	35	66%	29%
宮沢地区	8	2	0	0	10	80%	20%
玉野地区	13	4	3	0	20	65%	20%
常盤地区	9	6	1	1	17	53%	35%
標記なし	2				2	100%	0%
計	150	38	5	10	203	74%	19%

統合の時期についての基準については、統合すべきと回答した74%が「老朽度」を挙げている。最も古いおもだか保育園は昭和50年に設置され45年目を迎えており、私立のひまわり保育園も昭和56年より39年目と続き、各園とも設備等の不具合など維持管理費が増えている。また、19%が運動会やお遊戯会などの「保育園行事が維持できなくなったとき」を挙げており、特に宮沢地区、常盤地区は保育者数が20人台となっているなど本町地区以外での危機感が高い。

第2回 尾花沢市保育施設未来予想図検討委員会 ワークショップ

日 時：令和2年7月8日（水） 午後7時00分～8時30分

場 所：尾花沢市役所3階大会議室

出 席：17名

テーマ：①アンケート結果について話してみよう

【維持・統合全般に関する意見】

- ・様々な意見があり、簡単に「統合」とはいかないと感じる。「統合」については、現状の問題だけでなく、数年先の状況も考えて決めていかなければならないと思う。
- ・統合について、地区ごとに意見の違いがあるのは当然だと思う。今回のアンケートの実施対象が保育施設の利用者であり、各保育施設の保護者の率直な感想だと思う。統合意見の多い地区の保育施設から統合を考えていけばよいのではと考える。
- ・（統合の回答が多いのは）学園構想、学校再編が影響しているのではないか。
- ・統合した場合、公立、私立をどう両立させていくのか、経営をどうしていくのか、低年齢児の通園の方法をどうするのかなど検討すべき課題を整理する必要があるのではないか。
- ・維持、統合をした場合のメリット、デメリットを明確にしていくべき。
- ・「地元の子どもは地元で」「保育園がなくなることで地域が衰退する」の意見は同感です。

【地域の保育所、地域活性化に関する意見】

- ・地域に保育所があることによって、地域に住む理由になっているのではないか。地域から保育所なくなれば、本町地区ではなく東根市、村山市に転出すると思う。
- ・統合の意見が多いが、地域の活性化も考えてほしい。（統合により、学校がなくなった地域では学校及び子どもとの繋がりがなくなり、灯が消えたような地域も出てきている）
- ・各地域の保育園をどこまで維持していくのか、目安が必要ではないか。

【保育サービスや新しい事業に関する意見】

- ・子どものために、職員配置やサービスを考えていく必要がある。
- ・私立ができないサービスを公立で。（役割をはっきりと）
- ・子育て支援センターの充実などのサービスがあるのはありがたい。

テーマ：②保育施設を今後どうしていくべきか考えてみよう

【市全般の保育施設のあり方についての意見】

- ・本町地区の場合、公立、私立のそれぞれの良さがあるので残してほしい。
- ・（子どもの数を考えると）今後、小中学校についても統合せざるをえないと思う。それに伴い、保育施設についても子どもたちが充実した時間が過ごせるよう統合を進めてほしい。

- ・市に1園とするのではなく、保護者の方が園を選択できるようにある程度の数を維持してほしい
- ・本町地区に統合により、よりにぎやかな安心して預けられる保育園を目指す。地区の保育園は少ないながらもアットホームな保育園であることが魅力的だ。
- ・尾花沢市が大きく発展しない限り、財政の面からも統合の方向が有力。各地区の保育園を統合するのであれば、バス等の利便性向上が必要と思う。例) 通学通園バスの共有で経費削減とか。
- ・保育施設の統合はやむを得ないと思う(人数の面、施設の老朽化の面から)。ただし、送迎の面や保育環境の整備など検討しないといけない。
- ・本町地区の施設をどのように統合するか。各地区の保育施設をどのように統合するかの2つの視点でよいのか。小中学校との統合の関わりを踏まえる必要があるのでは。各地域に明るい話題が増える方策がないのかの視点もあるべきでないか。
- ・園と利用する保護者の生活に寄り添うことが大切であると思う。現状維持は理想だが、統合する場合は、中心部へ。

【地域保育施設についての意見】

- ・先を考えると1学年50人前後になる。玉野+ときわなど段階的に統合できないか。
- ・10年後今と比べて子どもの数が減少していくのは目に見えているため、ある程度の統合が必要になってくると思う。本町地区の利用者が増加することが考えられるが、それ以外の地区で統合することなど可能ではないか。必ずしも本町地区に統合する必要はない。
- ・地区の保育園は入所児童数の動向を見ながら、毎年アンケートなどを行い(地区民・保護者など) どうしていかを考えていく。
- ・今は各地区の保育園を続けていただきたいと思いますが、何年か先には、児童数も減るのが間違いないようですし、統合もやむを得ないと思います。あまりにも、人数が少ないと色々な行事等の盛り上がりにもかけてしまうと考えます。

【公立・私立のそれぞれのあり方についての意見】

- ・学園構想を踏まえ、10年先を考えたとき、小学校も中学校も1校になっていると思う。それなら、公立の保育園も1つになるはず。公立と私立のサービス区分を明確にしていく必要があると思う。公立保育園(市)は利用者のニーズ把握に努めてほしい。

第3回 尾花沢市保育施設未来予想図検討委員会 ワークショップ

日 時：令和2年8月17日（月） 午後7時00分～8時30分

場 所：尾花沢市役所3階大会議室

出 席：18名

テーマ：③本町地区統合による メリットとデメリット ※（ ）は同意見の数

【メリット】

- ・小さいころから多くの人と触れることができ、将来の人間関係に良い結果が出る。(3)
- ・園児が増えにぎやかになり、保育行事が楽しく見ごたえのあるものになる。(7)
- ・統合することで人数が増え、友達もたくさんできる。遊びの幅も広がりそう。(5)
- ・施設が集約化され、管理費が安くできる。(経費削減)(3)
- ・人員（職員）の配置に余裕ができる。(2)

【デメリット】

- ・保育園が減少すればそれぞれの教育、保育方針による選択、家庭のニーズによる選択ができない。(5)
- ・通園手段の検討が必要。(4)
- ・地域（地域の行事）を守ることができなくなるのではないか。(8)
- ・大人数だと保育士さんの目が届かなくなる。(2)

テーマ：④地域に保育園を残す メリットとデメリット

【メリット】

- ・利便性及び地域の活性化（地域交流）が維持できる。(7)
- ・緊急時に家族のみんなが送迎などすぐに対応できるし、通園に便利。(4)
- ・アットホームな環境で子ども一人一人に目が行き届き預ける親としても安心。(5)

【デメリット】

- ・施設が老朽化しており維持費がかさむ。(2)
- ・園児が少なく子供同士の関りも少なくなり、行事等も活動が寂しくなるし行事の維持も大変。(6)

【その他】

- ・これまでの小中学校統合に対する意見を参考とし進めるべき。(地域、保護者、園児のことをそれぞれの立場を考える必要がある)(2)
- ・地域の活性化を考えれば維持してほしいと思いますが、園児が10人をきるようであれば統合を進めるべきだと思う。(2)
- ・通常の保育サービスなどは民間に任せ、病児保育等採算をとることが困難だが必要なサービスを市で行う方が効率的である

第4回 尾花沢市保育施設未来予想図検討委員会 会議録

日 時：令和2年9月8日（火） 午後7時00分～7時45分

場 所：尾花沢市役所3階大会議室

出 席：17名

○協議内容

1. これまでの振り返りについて

第1回～第3回の経過について説明。第1回検討委員会において説明した少子化及び施設老朽化の現状、第2回・第3回検討委員会において出された意見を整理した。

【質疑】

委員（質問）

本町地区の保育園を統合するにあたり、公立と私立の役割を区別するとは、具体的にどのようなことか。

事務局（回答）

子どもの数が減少している中、通常保育を現状のとおり3園とすると、様々な問題がある（私立保育園の経営に影響等）。委員より意見も出されているが、私立保育園2園に通常保育を行ってもらい、公立は私立保育園ではなかなかできない保育サービス（病児病後児保育、休日預かり、夜間保育等）を行うなどが考えられる。

2. 保育施設の今後のあり方（案）について

ワークショップで出された意見を踏まえ、本市における保育施設のあり方について整理した事務局案を提示した。

【質疑】

委員（質問）

よつば保育園について触れていない。どのような位置づけとして考えているか。また、提言の中に含めてもらうことはできるか。

事務局（回答）

よつば保育園は、建物も築11年と新しく、市としては現状を維持していきたいと考えている。提言の中に記載する必要があるれば、その旨を記載したい。また、ひまわり愛育会が運営しているため、運営側の方針も確認したい。

委員（質問）

よつば保育園の入園児数は、年々減少しているものの、極端な減少率ではない。できれば地域の保育園として運営していきたい。なお、定員については状況に応じて市と協議しながら柔軟に変更していく。

事務局（回答）

ひまわり愛育会の考えを踏まえて、現状を維持していく旨を記載していきたい。

3. 今後の進め方について

本日の検討委員会で「尾花沢市における望ましい保育施設のあり方について（案）」の合意とさせてもらい、これまで委員会で議論した内容を踏まえ、提言書（案）を作成し、市長へ答申する。現状や課題の肉付け、文言の整理等は事務局に一任させてもらう。完成した提言書（案）は後日、各委員に郵送する。また、経過についてはHPなどに掲載し、情報発信していきたい。

【質疑】

委員（質問）

会議は本日で終了とのことだが、提言書（案）の内容の最終確認は必要でないか。

事務局（回答）

おっしゃるとおり。提言書（案）を各委員に送り、書面で内容の確認を行いたい。

【尾花沢市保育施設未来予想図検討委員会委員名簿】

分野	関係機関・団体名、役職名	氏名
(1) 子どもの保護者	おもだか保育園 保護者	大類 浩史
	おもだか保育園 保護者	伊藤 翔太
	さくら保育園 保護者	高橋 亨
	さくら保育園 保護者	本間 大河
	ときわ保育園 保護者	梶川 真也
	ときわ保育園 保護者	古瀬 正健
	玉野保育園 保護者	高橋 大陽
	玉野保育園 保護者	佐藤 信之
	ひまわり保育園 保護者	森 崇志
	ひまわり保育園 保護者	佐藤 彩夏
	よつば保育園 保護者	國分 麻理子
	よつば保育園 保護者	齊藤 麻実
	こばと保育園・尾花沢幼稚園 保護者	石沢 純二
	こばと保育園・尾花沢幼稚園 保護者	豊間根 卓
	(2) 子育て支援センター利用者代表	子育て支援センター利用者代表
(3) 地域代表	尾花沢地区区長 代表	石塚 清
	宮沢地区区長 代表	倉金 昭善
	福原地区区長 代表	加藤 静雄
	玉野地区区長 代表	遠藤 久芳
	常盤地区区長 代表	五十嵐 伸一
(4) 私立保育園園長	社会福祉法人ひまわり愛育会 ひまわり保育園園長	斎藤 徳和
	学校法人尾花沢学園 尾花沢幼稚園園長	千葉 光也
(5) 市立保育園園長	尾花沢市立玉野保育園 園長	千葉 美紀

【尾花沢市保育施設未来予想図検討委員会開催経過】

回	時期	検討内容等
第1回	令和2年2月25日	1. 委嘱状の交付
		2. 委員紹介、委員長及び副委員長選出
		3. 検討委員会設置の目的と役割について
		4. 保育所の現状について
		(1) 尾花沢市の保育所をとりまく環境について
		(2) 尾花沢市の保育所の現状について
		(3) 尾花沢市の保育サービスの実施状況 など
		5. 保護者アンケートについて
		6. 今後の議論の進め方について
【済】	保護者アンケート	3月18日～27日実施
第2回	令和2年7月8日	○ワークショップの実施
		1. アンケート結果について思うことを話してみよう アンケート結果を受けて委員の皆さんが感じたことを自由に出してください
		2. 保育施設をどうしていくべきか話してみよう 保育施設をどうしていくのか、自由に考えを出してみてください
		○ワークショップの実施
		1. 本町地区の保育施設をどのようにしていくのか考えてみよう 統合が進んだ場合のメリットとデメリットを整理してみよう
第3回	令和2年8月17日	2. 地区の保育施設をどのようにしていくのか考えてみよう 維持していくメリットとデメリットを整理してみよう
		○ワークショップの実施
		1. 現状と課題の再確認とこれまでの振り返り
第4回	令和2年9月8日	2. 保育施設のあり方(案)について